

今、始まる

小澤美法



青山ライフ出版

装丁／佐々木義洋

—ブルルルル—

「あっ、もしもし？ ママ？」

私は、双子の姉ナホ。妹は、ミリア。わけあって二人でくらしている。でも、もう中三だしね。

「ねえナホ、ママなんて言ってた？」

「それが…途中で切れちゃって…」

これはママのクセ。パパに呼ばれるとすぐに切っちゃうの。もう！でも、パパは発明家だからしょうがないの。

「あっ、ねえナホ。これ見て」

テレビを見ていたミリアが言った。

「R病、増えているんだって！」

「あら…そう」

R病というのは、重い病気。命にかかわることもある。

「キヤー！」突然ミリアがひめいをあげた。

(何よ、いきなり…と言いたいところですが)

「どうしたの？ ミリア」

（予想はできる…）

「こわいよ！ 心霊写真だったって！」

（やっぱりね…） もう！ 子供なんだから！

私とミリアは性格がまったく違う。私は正直クールだけれど、

ミリアはまだおさない感じ。でもケンカはしない。仲良しなことは確かかな。

「ねえ…こわいよ…ナホ」

「はいはい」

—プルルル—

「キヤー！ なに？」ミリアがまたひめいをあげる。

「は？ ただの電話よ！」と言いながら電話に出た。

「もしもし？ あっ、ママ？ 今ねミリアが…」

「いいから、早く来て！ あっ、病院にね！」

切れた。またか。

「ねえミリア。急いでいつものしたくしてね」

「え？ なんで？」

「よく分からないの。早く来てだって」

「はい」

いつものしたくというのは、ハンカチなどがつまったフレッシュパック！

「ほら、ミリア。行くよ」

「うーん！」

ードタバタドタバター

「もしもし？ ママ？ ついたんだけど…」

『治療室ー』

ガチャッ。また切れた。治療室って言ったよね。よし。

「ミリア、行くわよ」 なんだか冒険みたい。

ータッタタッタター 治療室の前まできた。

「失礼します…」

と言って静かにドアを開ける。